

部会長巻頭言

～ 1年目を振り返って ～

早いもので、部会長に就任して2年目に入り、それも3か月が過ぎました。役員および会員の皆様におかれては、ますますご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃の部会活動へのご高配に感謝申し上げます。

昨年度は、部会賞を経ての応募を含めて、多くの本部会員の化学工学会賞の受賞がありました。本部会のアクティビティを示すひとつの証拠であると同時に、仲間の受賞は大変うれしく思います。今後も、部会員の皆様の積極的な応募をよろしくお願いいたします。

さて、昨年度からの本部の積極的な学会改革の取り組みは、部会員の皆様もよくご存知のことと思います。3月の年次大会に続き、9月の秋季大会でもいろいろな試行がなされており、今後も続いていくものと思われまふ。先日、部会CT・部会長合同会議が開かれ、部会の再編に関する議論が行われました。各部会の現状の説明と再編に関する意見交換がフリーディスカッションの形で行われました。部会の運営や部会と分科会の関係、企業会員の活動状況など、部会でかなり異なっていました。部会がカバーする分野や部会・分科会の成り立ちなどから、違いがあるのは当然のことと思います。本部会でも、各分科会活動と部会活動の連携をどのように行うのがよいかはずっと模索され、ある程度は成熟してきていると感じます。今後は、さらに部会横断、学会横断というレベルでの活動を視野に入れていく必要があります。一方で、企業会員が多く産学連携が活発な分科会は、目的がはっきりして企業からの活動参加がやりやすいのに対し、横断的な行事には企業から参加しにくいという現状がいくつかの部会から出されました。しかし、企業、公的機関、大学それぞれにとって、10年先あるいはもっと先を考えると、現状がうまく行っているからそのままの活動形態を続けて良いということではなかろうと思います。

部会の将来を議論する場をどこかで作りたいと考えています。役員のみならず、企業会員や若手会員などの意見も十分に組み上げていく必要があります。会員の皆様の率直なご意見を、気軽に部会長に投げさせていただきたいと存じます。

(部会長・梶原 稔尚(九州大学教授))

2014年度 部会幹事会報告・総会報告

日時: 2015年3月18日(水) 13:00-13:50 (幹事会) 14:00-15:00 (総会)

場所: 東京工業大学・キャンパスイノベーションセンター2階多目的室1

幹事会出席(順不同, 敬称略)

梶原, 太田, 大川原, 本間, 野田, 福井, 岩田, 西岡, 吉本, 桑木, 加納, 島田, 名嘉山

1 幹事会議事録

1.1 前回幹事会議事録の確認(部会長)

2014/9/18 開催秋季大会幹事会の議事録(承認済)が確認された。

1.2 2014年度分科会配分: 2014年度会費収入と未収状況(部会事務局)

配布資料に基づき説明がなされ、2014年度の部会会員会費収入と分科会配分の調整額が確認された。

1.3 2014年度部会・分科会活動報告(部会長, 部会事務局)

配布資料に基づき説明がなされ、2014年度活動報告書を確認し、各分科会の実施行事の未記入分の連絡を受けて、本部へ提出することが承認された。

1.4 2014年度決算(部会長)

配布資料に基づき説明がなされ、監査済み(2015/3/17)の2014年度部会決算書が承認された。

1.5 2015年度事業計画(部会長)

配布資料に基づき説明がなされ、本部へ提出済(2015/1/13)の2015年度部会事業計画が承認された。

1.6 2015年度予算(部会長)

配布資料に基づき説明がなされ、本部へ提出済(2014/11/11)の2015年度部会予算書が承認された。

1.7 化学工学会賞の紹介(部会長)

部会会員の化学工学会賞受賞について報告された(配布資料)。

1.8 若手・女性育成プロジェクトの実施報告(西岡幹事)

配布資料に基づき説明がなされ、2014年度実施した若手・女性育成プロジェクトについて報告された。

1.9 第47回秋季大会(部会長)

配布資料に基づき説明がなされ、特別シンポジウ

ム提案状況、部会セッションの募集、部会シンポジウム賞が大会実行委員会からの表彰となる可能性があることが説明された。ただし、未確定事項があるため、状況に応じて対応することが承認された。

1.10 IWPI2015

配布資料に基づき説明がなされ、IWPI が再延期されたこと、開催地・時期が検討中であることが通知された。

1.11 動画賞規程の改訂(太田副部長)

配布資料に基づき説明がなされ、動画賞規定の改定について説明され、承認された。

1.12 その他

配布資料に基づき説明がなされ、気泡・液滴・微粒子分散工学分科会が参加するファインバブル学会連合の発足について連絡がなされた。

2 総会議事録

2014 年度年会幹事会における審議内容が報告され了承された。

(事務局・名嘉山 祥也)

2015 年度 幹事会役員の紹介

	氏名	所属	担当	分科会
部会長	梶原 稔尚	九州大学		
副部会長	太田 光浩	徳島大学	部会賞	
	後藤 邦彰	岡山大学	行事	
	山本 一己	綜研化学	若手・女性育成プロジェクト	
幹事	大川原 真一	東京工業大学	ニュースレター(正)	熱物質流体工学 代表
	加藤 禎人	名古屋工業大学	部会セミナー(正)	ミキシング技術 代表
	本間 俊司	埼玉大学	シンポジウム賞	気泡・液滴・微粒子 分散工学 代表
	桑木 賢也	岡山理科大学	会員増強	流動層 代表
	福井 国博	広島大学	フロンティア賞	粉体プロセス 代表
	岩田 修一	名古屋工業大学	国際会議(IWPI)(副)	熱物質流体工学 副代表
	西岡 光利	佐竹化学機械工業	若手・女性育成プロジェクト	ミキシング技術 副代表
	吉本 誠	山口大学	動画賞	気泡・液滴・微粒子 分散工学 副代表
	中里 勉	鹿児島大学	技術賞	流動層 副代表
	加納 純也	東北大学	ニュースレター(副)	粉体プロセス 副代表
企画幹事	鈴木 洋	神戸大学	国際会議(IWPI)(正)	
	鷲見 泰弘	カネカ	会員増強	
	亀井 登	ダイセル	若手・女性育成プロジェクト	
	所 千晴	早稲田大学	若手・女性育成プロジェクト	
	島田 直樹	住友化学	部会セミナー(副)	
監事	上ノ山 周	横浜国立大学		
	臨屋 和紀	大川原製作所		
事務局	名嘉山 祥也	九州大学	(HP担当兼務)	

(事務局・名嘉山 祥也)

2014 年度粒子・流体プロセス部会賞 フロンティア賞・講評と表彰式

化学工学論文集, *J. Chem. Eng. Japan* など化学工学に関連する国内外の学術雑誌に掲載された論文のうち、本部会会員が著者となっている特にフロンティア性の高い優秀な研究論文に対して与えられる本賞は 2008 年度に創設されました。これまでに 5 件の論文著者に本賞を授与しています。

2014 年度は、2013 年 9 月より 2014 年 8 月までに掲載された論文を対象として、9 月 26 日締切で募集を行いました。その結果、5 件の応募があり、各分科会から選出された選考委員で構成される選考委員会で厳正なる審査を行いました。

通常、本賞は年度毎に 1 件の論文著者に対して授与しておりますが、今年度は 2 件の論文の審査結果が極めて高く、いずれもフロンティア賞を受賞するに相応しい論文であるとの結論に至りました。その結果、以下の 2 件の論文著者にフロンティア賞を授与することと致しました。

題目: Fictitious particle method: a numerical model for flows including dense solids with large size difference

掲載誌: *AIChE Journal*, Vol.60, 1606-1620 (2014).

著者: Takuya Tsuji (大阪大学), Kyohei Higashida (大阪大学・学生), Yoshitomo Okuyama (大阪大学・学生(現信越化学工業(株))), Toshitsugu Tanaka (大阪大学)



ご講演を行う辻氏



表彰を受ける辻氏

題目: Arbitrary-shaped wall boundary modeling based on signed distance functions for granular flow simulations

掲載誌: Chemical Engineering Journal, Vol.231, 464-476 (2013).

著者: Yusuke Shigeto (東京大学・学生(現(株)神戸製鋼所), Mikio Sakai (東京大学)



ご講演を行う酒井氏



表彰を受ける酒井氏

また、2015年3月18日東京工業大学キャンパスイノベーションセンターにおいて、表彰式と受賞講演を行いました。

(フロンティア賞担当・福井 国博)

**2014年度粒子・流体プロセス部会
シンポジウム賞
(プレゼンテーション賞、奨励賞)受賞講演**

第46回秋季大会でのシンポジウム賞の受賞者は、ニュースレター12号で既に報告しておりますが、奨励賞については残念ながら受賞はありませんでした。2015年度も引き続きシンポジウム賞が設定されますので、積極的なご応募をお願いします。

(シンポジウム賞選考委員長・本間 俊司)

**2014年度粒子・流体プロセス部会賞
動画賞・講評と表彰式**

2014年度動画賞は、応募された作品について、審査・選考委員会を結成して、厳正な審査を行い、研究・技術・教育各部門の受賞作品(計4件)を決定しました。各部門の受賞作品と部会総会

(2015.3.18, 東京)で行われた受賞式の様子は次のとおりです。

【 研究部門 】

「流脈観察に基づく大型翼の混合機構」

加藤 禎人(名古屋工業大学), 平松 将(名古屋工業大学・学生), 古川 陽輝(名古屋工業大学), 多田 豊(名古屋工業大学)



表彰を受ける平松氏

「バクテリアを模した自走粒子の直接数値シミュレーション」

岡村 惇也(京都大学・学生), John Molina(京都大学), 山本 量一(京都大学)



表彰を受けるMolina氏

【 技術部門 】

「プラズマリアクター内での微粒子挙動の可視化 (Visualization of Particle Behavior in a Plasma Reactor)」

Heru Setyawan(Sepuluh Nopember Inst. Tech), Ratna Balgis(広島大学), Widiyastuti(Sepuluh Nopember Inst. Tech), 荻 崇(広島大学), 奥山 喜久夫(広島大学)



表彰を受けるBalgis氏

【 教育部門 】

「気液自由界面上に生じるマランゴニ対流を用いたマイクロ混合デバイスの大スケールチャンネルへの応用」

山田 崇(芝浦工業大学・学生), 小野 直樹(芝浦工業大学)



表彰を受ける山田氏

部会総会において、受賞式後に各作品の鑑賞会を行いました。いずれの作品も各部門の趣旨に相応しい要素で構成されており、出席者は大変熱心に見入っていました。受賞作品は部会HPに公開されていますので、是非ご覧ください。

(動画賞選考委員長・吉本 誠)

2014 年度粒子・流体プロセス部会賞 技術賞・講評と表彰式

2014 年度の技術賞には 1 件の推薦があり、技術賞選考委員会(委員長・群馬大学 野田玲治)により各分科会からの審査員 5 名で審査を行いました。今回の候補も、技術的な新規性が高く、また実機として実用化され、優れた攪拌性能と異物混入防止を同時に実現した技術として医薬・電子材料系をはじめ、攪拌装置の適用分野や用途の飛躍的拡大が見込まれることから高い評価となりました。以上より、下記 1 件の技術が 2014 年度の技術賞候補として推薦され、部会の承認を経た後、3 月 18 日開催の化学工学会第 80 年会の部会総会で表彰されました。

<受賞技術>無摺動クリーン攪拌機 スイングスターの開発

(株)神鋼環境ソリューション

小川智宏

半田裕利

山本昌史



ご講演を行う小川氏



表彰を受ける小川氏

(2015 年度技術賞選考委員長・中里 勉)

2014 年度化学工学会賞

神戸大学・日出間るり氏が 2014 年度化学工学会賞・研究奨励賞(玉置明善記念賞)を受賞しました。

【研究奨励賞 玉置明善記念賞】

日出間 るり 氏 (神戸大学)

「薄膜干渉流動画像法を用いた高分子伸長が乱流抑制に与える影響の解明」

株式会社徳寿工作所・吉次寛氏他が 2014 年度化学工学会賞・技術賞を受賞しました。

【技術賞】

*吉次 寛 氏、吉田 泰三 氏、朝日 正三 氏、堀合 誠 氏 (株式会社徳寿工作所)

*代表者

「DEMによる新型粉体混合機の開発とその製品化」

2015 年度粒子・流体プロセス部会 シンポジウム賞の募集について

化学工学会第47回秋季大会における粒子・流体プロセス部会企画の下記のセッションでは、シンポジウム賞(奨励賞およびプレゼンテーション賞)を設定しています。

SE-11 熱物質流体工学の最前線2015

SE-12 気泡・液滴・微粒子分散工学2015

SE-13 革新的粉粒体プロセス技術の進展 – 基礎現象, 基礎技術から単位操作, 応用事例まで –

SE-14 ミキシング技術の基礎と応用

奨励賞の対象は、審査を希望する37歳未満の正会員の発表とします。「奨励賞」につきましては、奮ってのエントリーをお願い致します。プレゼンテーション賞の対象は、SE-11～SE-14で、学生会員(社会人Dr. コース在籍者を除く)の全発表としますが、辞退も受け付けます。詳細につきましては下記のアドレスへアクセスの上、案内をご参照下さい。

<http://www2.scej.org/partluid/data/hyosho/Symposium/2015/sympo-boshu47th.pdf>

(担当・本間 俊司)

2015 年度粒子・流体プロセス部会 技術賞の募集について

粒子・流体プロセス部会では、毎年粒子・流体プロセスに関連した技術に関して特にすぐれた業績のあった者に技術賞を授与しております。本年度も本部会に関係する技術を対象に、会員の推薦による候補者から、厳正な審査のうえ受賞者を決定する予定です。

1. 審査対象

粒子・流体プロセスに関連した新規性、有用性の高い技術で、実用化あるいは実用化に近い段階まで達しており、その実用化により社会的にインパクトの大きな装置、システム、プラントなどの開発に貢献した者とし、その基本原理の発明者、あるいは開発者の個人または5名以内の共同研究・開発者に授与します。ただし、受賞候補者の中には本部会会員(個人会員・法人会員・特別会員)を含む必要があります。

2. 対象とする期間

主として過去1年間に公表された技術を対象とします。ただし、長期にわたる技術開発や特別の事由がある場合はこの限りではありません。本年度の審査は秋以降を予定しておりますが、募集内容は皆様にwebあるいはメール等でご連絡いたします。我が国の国際競争力の低下等が指摘されておりますが、優れた技術を顕彰し、粒子・流体プロセス分野での我が国の技術のプレゼンスを高めることが重要と考えますので、自薦を含め注目する技術を是非ご推薦いただきますよう、お願いいたします。

(担当・中里 勉)

2015 年度粒子・流体プロセス部会 動画賞の募集について

化学工学会第47回秋季大会における粒子・流体プロセス部会企画のシンポジウム

SE-11 熱物質流体工学の最前線 2015

SE-12 気泡・液滴・微粒子分散工学 2015

SE-13 革新的粉粒体プロセス技術の進展 – 基礎現象, 基礎技術から単位操作, 応用事例まで –

SE-14 ミキシング技術の基礎と応用

の発表において優秀な動画をご発表いただいた方を対象に、動画賞を設定しています。動画賞は研究作品、技術作品、教育作品の3部門ございます。受賞者には、翌年の化学工学会第81年会時に授賞式を行い、併せて作品鑑賞会を実施する予定です。

【応募要項】(詳細と応募様式は、2015.5.11 に部会事務局より会員の皆様にメール配信されました内容をご覧ください。)

対象作品は①～③の条件を満たす動画です。

①化学工学会第47回秋季大会における粒子・流体プロセス部会企画の上記シンポジウムで発表した講演著者の発表動画であること。

②動画賞規程に従い、以下の条件を満たすものとする。(今年度、一部改正されていません。)

1. シンポジウムにおける発表作品であること。
2. 作品内容は、新規な研究あるいは技術要素が含まれること。
3. 作品の長さは5分を標準とし、10分以内であること。
4. 作品には、表題、説明(ナレーションおよびスチル画面等)があり、それだけで完結した内容であること。
5. 粒子・流体プロセスの研究・開発・教育に関するまじめな作品であること。

③YouTubeに投稿された公開動画であること

これまでの動画賞受賞作品は、部会HPでご覧頂けます。情報発信手段としても有効と考えられます。会員の皆様より、多数のご応募をお待ちしております。

(担当・吉本 誠)

2015 年度粒子・流体プロセス部会 フロンティア賞の募集について

2008 年度に創設されたフロンティア賞の募集を今年度も行います。化学工学論文集, *J. Chem. Eng. Japan* など(化学工学に関連する国内外の学術雑誌や同関連の国際会議等での査読付き

Proceedings)に掲載された論文の中で、特にフロンティア性の高い優秀な研究論文で、本部会会員が著者になっている論文を推薦の対象としています。

本賞は、着想のフロンティア性、研究へのアプローチに対するフロンティア性、結果に対するフロンティア性、粒子・流体プロセス分野に対するフロンティア性の4項目を評価項目としています。今年度は2014年9月から2015年8月までに掲載された論文を審査対象とし、自薦、他薦を問いません。募集開始は8月上旬を予定しております。正式に決定次第、ホームページ、メールで会員の皆様へ告知致しますので、皆様からの多数の応募をお願い致します。本賞の詳細は部会ホームページの以下のアドレスでご覧頂けます。

<http://www2.scej.org/partluid/data/hyosho/Frontier/frontier.php>

なお、受賞者には、表彰式に出席頂き、部会セミナーとして行われる受賞講演をお願い致します。

(担当・福井 国博)

分科会からのお知らせ

【熱物質流体工学分科会】

熱物質流体工学分科会では、例年通り秋季大会前日に「熱物質流体工学セミナー2015」を開催いたします。

「熱物質流体工学セミナー2015」

日時:9月8日(火) 15:30 - 20:00

場所:北海道大学 工学部 A101 室

〒060-0808 北海道札幌市北区北8条西5丁目
交通アクセス:

<http://www.hokudai.ac.jp/introduction/campus/campusmap/#access>

プログラム:

15:30~15:40 開会挨拶

15:40~16:30

「気液界面で生じる相変化現象の分子流体力学を用いた解析と気泡力学への展開」

北海道大学大学院 工学研究院 機械宇宙工学部門
小林 一道 氏

16:30~16:40 休憩

16:40~17:30

「次世代半導体製造プロセスで用いられる誘導自己組織化に関するシミュレーション」

京都大学大学院 工学研究科 化学工学専攻
吉元 健治氏

17:30~17:40 閉会挨拶

18:00~20:00 交流会(居酒屋 日本一 別宴邸)

参加予定人数 30名

参加費 一般 5,000円 学生 2,500円

申し込み 住所・氏名・電話番号・Emailアドレスをご記入の上、下記までEmailにて9月1日(火)までにお申し込みください。

申し込み・問い合わせ先:

〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1 S1-26
東京工業大学 理工学研究科 化学工学専攻
大川原 真一

Email: sokawara@chemeng.titech.ac.jp

Tel & Fax: 03-5734-3692

(分科会代表・大川原 真一)

【ミキシング技術分科会】

ミキシング技術分科会では例年通り、夏期セミナー、東日本、関西・東海(6/1終了)、九州各地区のサロンを開催いたします。日程が決定しているもののみ下記ご案内申し上げます。

(1) 夏期セミナー「複雑系に挑むミキシング技術」
期日:平成27年8月6日(木)~7日(金)

場所:神戸大学 瀧川学術記念会館

講演:

【8月6日(木)】

・微粒子合成と液液攪拌 東北大学 今野幹男氏
・複雑系の高速スラリー化を実現するジェットペー
スタ 日本スピンドル製造 浅見圭一氏

・ホモミキサーによる乳化技術について 資生堂
横川佳浩氏

・分散機メーカーによる技術紹介・懇親会

【8月6日(金)】

・Improved Slurry Agitation Technology for
Large-scale minerals processing CSIRO Dr. Jie
Wu

・ガラスプラントシステム事例集 攪拌槽型装置を
中心に 旭製作所 渡部芳英氏

・正逆交互回転翼の攪拌特性 住友化学 仙田
早紀氏, 神戸大学 菰田悦之氏

参加費:正会員:¥13,000, 学生会員:¥8,000, 会
員外:¥25,000 + 懇親会参加:¥5,000 別途

申込方法:7/28(月)までにメールで以下項目を明
記願います。氏名, 所属, E-mailアドレス, 電話番
号, 懇親会出欠, 会員の別

申込先:komoda@kobe-u.ac.jp (菰田悦之)

(2) 第25回関西・東海地区ミキシング技術サロン
(産学官連携センターグローバルテクノロジー委員会共催)

期日:平成 27 年 6 月 1 日(月) 参加者:57 名

場所:富山国際会議場 2 階会議室

講演:

・「晶析のスケールアップ」元住友化学(株) 高橋邦壽氏

・「流脈観察に基づく攪拌槽の性能評価と新型翼の開発」名古屋工業大学 加藤禎人氏

(分科会代表・加藤 禎人)

【気泡・液滴・微粒子分散工学分科会】

今年度の活動について、主なものをご紹介します。まず、化学工学会第 47 回秋季大会において、部会セッション「(SE-12)気泡・液滴・微粒子分散工学 2015」を企画しました。セッションでは、千葉大学の山田真澄先生から「マイクロ流路層流系を利用する微粒子の精密湿式分級プロセス」と題する展望講演もいただく予定です。是非ご参加を頂き、活発な討論をして頂ければと存じます。

秋季大会の初日(9 月 9 日(水))の夕方には、恒例の気液固分散工学サロンも開催します。今回は、日本大学の石神徹先生をお迎えして、「固液ならびに液液分散系の膜細孔透過に関する直接数値シミュレーション」と題するご講演を頂きます。奮ってご参加ください。なお、詳細は下記ホームページをご覧ください。

<http://www.applc.keio.ac.jp/~terasaka/BUDROPE/>

東京大学ならびに(株)構造計画研究所との共催で「第3回混相流に関する最先端科学技術シンポジウム」を 2014 年 11 月 20 日(金)の午後に株式会社構造計画研究所、本所新館地下1階「レクチャールーム」にて開催します。6人の講師から最新の研究成果を報告して頂く予定です。是非ご参加ください。詳細については下記ホームページをご覧ください。

<http://dem.t.u-tokyo.ac.jp/yayoi.html>

他にも色々な行事を開催、共催して参ります。部会会員の皆様にも案内を送付させていただきますので、積極的に本分科会の活動にご参加して頂ければと存じます。情報は、HP 上にて随時、更新して参りますので、下記の本分科会 HP をご参照ください。

<http://www.applc.keio.ac.jp/~terasaka/BUDROPE/>

(分科会代表・本間 俊司)

【流動層分科会】

第 21 回流動化・粒子プロセッシングシンポジウム(FB21)が 2015 年 12 月 10 日(木)~11 日(金)に九州工業大学戸畑キャンパス百周年中村記念

館(福岡県北九州市戸畑区仙水町 1-1)にて行われます。以下の 6 分野について講演を募集します。

1. 流動化のサイエンス(流動・伝熱・気泡・CFD)
2. 機能性粒子・コーティング・造粒
3. エネルギー・リサイクル・環境浄化・バイオマス転換・CO2 排出低減
4. 反応操作(触媒反応・気固反応)
5. 物理操作(乾燥・分離・熱処理・粒子付着・粒子捕集・磨耗)
6. 医薬品・粉体プロセッシング

講演申込みの締め切りは 8 月 31 日(月)となっております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。なお、シンポジウムの詳細は下記ウェブサイトをご参照ください。

シンポジウムウェブサイト URL:

<http://www.che.kyutech.ac.jp/chem21/FB-21/overview.html>

(分科会代表・桑木 賢也)

【粉体プロセス分科会】

当分科会は、秋季大会のセッション企画を主たる行事の一つとして運営しております。今年度は、北海道大学において開催される第 47 回秋季大会にて、「革新的粉粒体プロセス技術の進展－基礎現象、基礎技術から単位操作、応用事例まで」と題した部会セッションを流動層分科会と共催致しております。講演申込は既に終了致しておりますが、優秀論文賞受賞講演も 3 件含まれておりますので、皆様の積極的なご参加をお願い致します。

また、共催行事である「日韓粉体技術シンポジウム」が、9 月 14、15 日に韓国ソウル大学で行われます。2012 年度に開催した「粉体プロセス工学セミナー」を本年度は是非とも開催したいと考えております。

今後も引き続き、粉体プロセスに関するシンポジウムや研究会等各種行事を積極的に共催・協賛して参りたいと考えておりますので、共催・協賛のご依頼がございましたら、分科会幹事まで是非ご連絡下さい。

末筆になりますが、分科会事務局では、今年度、分科会会員名簿およびメールアドレスの整備・確認を行うと共に、分科会会員のメーリングリストを作成致しましたので、分科会会員の皆様に情報発信を希望される場合は、ご連絡下さい。

(分科会代表・福井 国博)

2015 年度部会セミナーについて

部会セミナーは部会表彰者を講演者として年会時に開催されることになりました。本年度は、まだ受賞者および年会時の期日や場所が未定のため、改めてご案内申し上げます。

(担当・加藤 禎人)

若手・女性育成プロジェクトについて

本年1月9日に(株)ダイセルの衣掛クラブおよび網干工場にて若手研究者・技術者を対象とした工場見学および交流会が開催されました。今回、定員を超える参加希望者があり、34名(うち、ダイセル若手社員5名)の方に参加いただきました。

講演会では、男女共同参画委員会の藤岡恵子委員長からその取組みについてのご紹介をいただき、神戸大学の日出間先生から「ソフトマターの流動を解明したい！」と題して、最新のご研究についてのご講演、そしてダイセルから企業管理者から若手・女性人材に関する講演と男女若手から取組んでいる技術の内容や課題や思いを発表していただき、活発な意見交換がなされました。

ダイセルでは生産革新によるコストダウンの取組みを進めており、工場見学と共に統合生産ルームにて、その取組み内容の紹介を受け、活発な質問や意見交換が行われました。

また、交流会では若手技術者の間での様々な交流と会話が行われ、有意義な場となりました。

(報告・ダイセル 亀井 登)



(担当・山本 一巳)

部会への入会方法

■化学工学会の個人会員の方は、化学工学会HP(<http://www.scej.org/>)の「各種申込>部会入会」より、お申し込み下さい。eメールなどの変更も、化学工学会HPで行えます。

■化学工学会の会員(法人・個人)でない法人あるいは個人の方で、本部会の法人特別会員、特別個人会員入会をご希望の方は、下記の粒子・流体プロセス部会事務局までご連絡下さい。

■分科会への入退会は、部会事務局へご連絡下さい。

■本部会の法人特別会員、特別個人会員の方で、eメール等の変更は事務局までお知らせ下さい。

■詳しくは

<http://www2.scej.org/partluid/nyukai.php> をご覧ください。

Phone/Fax : (092)802-2756

E-mail: scej.fpp+membership@gmail.com

(事務局・名嘉山 祥也)

部会ニュースレター編集後記

予定より若干の遅れで発行にこぎつけることができました。大変お忙しいなか、ご執筆頂いた方々に感謝申し上げます。

ニュースレターは、担当が掲載項目を決めて執筆を依頼する形になっておりますが、次号以降でこれまでにない掲載記事のご希望があれば、担当までご連絡下さると幸いです。

(ニュースレター担当・大川原真一・加納純也)